

## 線形代数テスト 1a

樋口さぶろお<sup>1</sup> 配布: 2019-05-28 火 更新: Time-stamp: "2019-07-26 Fri 10:39 JST hig"

### テスト 1a 参加案内

1. 指定された用紙に解答しよう.
2. 過程も答えよう. 最終的な答えが正しいことがわかるような過程を記そう.
3. 問題文に現れない記号を使うときは, 定義を記そう.

## 1

### 結果のみ, 過程不要

次の積のうち, 定義されないものに「×」, 定義されるものには, 型を「2 行 3 列」のように答えよう (行の個数は縦方向のサイズ, 列の個数は横方向のサイズ).

1.  $\begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 \\ 4 & 5 & 6 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -1 & -2 & -3 \\ -4 & -5 & -6 \end{bmatrix}$
2.  ${}^t \begin{bmatrix} 1 & 2 & 3 & 4 \\ 5 & 6 & 7 & 8 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} -1 & -2 & -3 \\ -4 & -5 & -6 \end{bmatrix}$
3.  $\begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 4 & 5 \end{bmatrix}$
4.  $\begin{bmatrix} 1 & 2 \\ -1 & -2 \\ -3 & -4 \\ -5 & -6 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 4 & 5 \\ 6 & 7 \end{bmatrix}$
5.  $\begin{bmatrix} -1 & -2 \\ -3 & -4 \\ -5 & -6 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 \\ 4 \\ 7 \end{bmatrix}$

## 2

### 結果のみ, 過程不要

次のうち, 任意の 2 次の正則行列  $A, B$  に対して成立するものに○, そうでないものに×をつけよう.

1.  $(AB)^{-1} = A^{-1}B^{-1}$
2.  $B(AB)^{-1}A = E$
3.  $(A + B)^3 = A^3 + 3A^2B + 3AB^2 + B^3$
4.  ${}^t(AB) = {}^tA{}^tB$
5.  ${}^t(A + B) = {}^tA + {}^tB$

<sup>1</sup>Copyright © 2019 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

### 3

**結果のみ, 過程不要**

行列  $A = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ -6 & 6 \end{bmatrix}$  の固有値  $\lambda_1 = 3$  に対応する固有ベクトルは  $\boldsymbol{x}_1 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$ , 固有値  $\lambda_2 = 4$  に対応する固有ベクトルは  $\boldsymbol{x}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix}$  である.

1. 関係  $P^{-1}AP = \Lambda$  が成立するような対角行列  $\Lambda$ , 正則行列  $P$  を1組答えよう.
2. 関係  $QA = DQ$  が成立するような対角行列  $D$ , 正則行列  $Q$  を1組答えよう.

### 4

**結果のみ, 過程不要**

行列

$$A = \begin{bmatrix} a & b \\ b & a \end{bmatrix}$$

を直交行列  $P$  で対角化して,  $P^{-1}AP = \Lambda$  となった. ただし,  $b \neq 0$  であり,  $P$  は直交行列,  $\Lambda$  は対角行列である.

つぎのうち, 直交行列  $P$  としてありうるものが1つだけある. それを選ぼう.

1.  $\frac{1}{\sqrt{2}} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$
2.  $\frac{1}{\sqrt{2}} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}$
3.  $\frac{1}{2} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$
4.  $\frac{1}{2} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}$
5.  $\frac{1}{5} \begin{bmatrix} -3 & 3 \\ 4 & 4 \end{bmatrix}$

### 5

**結果のみ, 過程不要**

次の行列の積を計算しよう.

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 & 2 \\ 2 & 1 & -1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 2 & 0 \\ 1 & 3 \end{bmatrix}$$

### 6

**結果のみ, 過程不要**

行列  $A = \begin{bmatrix} 1 & 3 \\ -5 & 2 \end{bmatrix}$  を考える.

1. 行列式  $\det A$  を求めよう.
2. 逆行列  $A^{-1}$  を求めよう.

## 7

### 結果のみ, 過程不要

実対称行列  $A = \begin{bmatrix} -2 & 2 \\ 2 & 1 \end{bmatrix}$  の固有値  $\lambda_1 = -3$  に対応する固有ベクトルは  $\boldsymbol{x}_1 = \begin{bmatrix} -2 \\ 1 \end{bmatrix}$ , 固有値  $\lambda_2 = 2$  に対応する固有ベクトルは  $\boldsymbol{x}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}$  である.

関係  ${}^tPAP = \Lambda$  が成立するような対角行列  $\Lambda$ , 直交行列  $P$  を 1 組答えよう.

## 8

### 結果のみ, 過程不要

平面の線形変換を考える.

1. 原点を中心に角  $\pi/6$  だけ反時計回りに回転する線形変換を表す行列を答えよう.
2.  $x$  軸に関して対称移動する線形変換を表す行列を答えよう.

## 9

### 過程も記述すること

平面の線形変換を考える.

平面上の点に対して,

- まず 行列  $P = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 4 \end{bmatrix}$  の表す線形変換  $f_1$ ,
- 次に  $D = \begin{bmatrix} 2 & 0 \\ 0 & -3 \end{bmatrix}$  の表す線形変換  $f_2$  を  $n$  回 ( $n = 0, 1, 2, \dots$ ),
- 最後に  $f_1$  の逆変換  $f_3$

を, この順番で続けて行う.

1. これら  $(n + 2)$  個の線形変換の (この順番での) 合成変換を表す行列を答えよう.
2. この合成変換で, 平面の点  $\begin{bmatrix} 1 \\ -2 \end{bmatrix}$  の写る点を答えよう.

## 10

### 過程も記述すること

行列  $A = \begin{bmatrix} -8 & 3 \\ -8 & 6 \end{bmatrix}$  の固有値と固有ベクトルを求めよう.

## 線形代数テスト 1a 略解

樋口さぶろお<sup>2</sup> 配布: 2019-05-28 火更新: Time-stamp: "2019-07-26 Fri 10:39 JST hig"

これは、一部の過程のみ記した略解です。参加者はすべての過程を記す必要があります。

**配点** 計 100 点.

### 1

1. ×
2. 4 行 3 列
3. 3 行 2 列
4. 1 行 2 列
5. ×

**配点** 1-5:各 2 点, 計 10 点.

### 2

1. ×  $(AB)^{-1} = B^{-1}A^{-1}$
2. ○  $B(AB)^{-1}A = B(B^{-1}A^{-1})A = (BB^{-1})(A^{-1}A) = E$
3. ×  $(A+B)^3 = A^3 + (AAB + ABA + BAA) + (ABB + BAB + BBA) + B^3$
4. ×  ${}^t(AB) = {}^tB{}^tA$
5. ○

**配点** 1-5:各 2 点, 計 10 点.

**講評** 1-4 は授業で扱った公式またはそのストレートな適用.

5 は、転置の定義から正誤判定できてほしい式.

1-5 について、知識によらなくても、 $A, B$  に適当な正則行列をおいて両辺を計算して、等しくならなかったら × という確実な判定ができます.

### 3

1.  $\Lambda = \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 4 \end{bmatrix}, P = \begin{bmatrix} 1 & 1 \\ 2 & 3 \end{bmatrix}$ .  $P$  の列ベクトルはそれぞれ定数倍されていてもよい.  $\Lambda$  と  $P$  の列ベクトルの順序は対応する.

---

<sup>2</sup>Copyright © 2019 Saburo HIGUCHI. All rights reserved.

2.  $QA = DQ$  に右から  $Q^{-1}$  をかけて同値変形して得られる  $QAQ^{-1} = D$  と  $P^{-1}AP = \Lambda$  とを比べると,  $Q = P^{-1}, D = \Lambda$  が答の一例.

$$D = \begin{bmatrix} 3 & 0 \\ 0 & 4 \end{bmatrix}, Q = \frac{1}{1 \cdot 3 - 1 \cdot 2} \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 3 & -1 \\ -2 & 1 \end{bmatrix}.$$

**配点** 1  $\Lambda, P$  :各 3 点, 2  $D, Q$  :各 3 点, 計 12 点.

#### 4

2 個の列ベクトルがともに単位ベクトルで, 互いに直交するものを選んで, 1.

$$\frac{1}{\sqrt{2}} \begin{bmatrix} -1 & 1 \\ 1 & 1 \end{bmatrix}$$

**配点** 4 点.

#### 5

$$\begin{bmatrix} 2 & 7 \\ 1 & -1 \end{bmatrix}$$

**配点** 5 点.

#### 6

1.  $\det A = 1 \cdot 2 - 3 \cdot (-5) = 17.$
2.  $A^{-1} = \frac{1}{17} \begin{bmatrix} 2 & -3 \\ 5 & 1 \end{bmatrix}.$

**配点** 1,2:各 5 点. 計 10 点.

#### 7

長さ  $|\mathbf{x}_1| = \sqrt{5}$ .  $\mathbf{x}_1$  と平行な単位ベクトル (の一例) は  $\mathbf{x}'_1 = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{bmatrix} 2 \\ -1 \end{bmatrix}.$

長さ  $|\mathbf{x}_2| = \sqrt{5}$ .  $\mathbf{x}_2$  と平行な単位ベクトル (の一例) は  $\mathbf{x}'_2 = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \end{bmatrix}.$

よって,  $\Lambda = \begin{bmatrix} -3 & 0 \\ 0 & 2 \end{bmatrix}, P = [\mathbf{x}'_1 \quad \mathbf{x}'_2] = \frac{1}{\sqrt{5}} \begin{bmatrix} 2 & 1 \\ -1 & 2 \end{bmatrix}.$  実際,  ${}^t P = P^{-1}$  となっていることがわかる.

配点  $\Lambda$ :2点,  $P$ :8点, 計10点,

## 8

1. 回転行列の定義から,

$$\begin{bmatrix} \cos \pi/6 & -\sin \pi/6 \\ \sin \pi/6 & \cos \pi/6 \end{bmatrix} = \frac{1}{2} \begin{bmatrix} \sqrt{3} & -1 \\ 1 & \sqrt{3} \end{bmatrix}.$$

2.

$$\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & -1 \end{bmatrix}.$$

配点 1,2:各5点, 計10点.

## 9

$$1. P^{-1}D^n P = \frac{1}{4} \begin{bmatrix} 4 & -2 \\ 0 & 1 \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 2^n & 0 \\ 0 & (-3)^n \end{bmatrix} \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 0 & 4 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} 2^n & -2(-3)^n + 2^{n+1} \\ 0 & (-3)^n \end{bmatrix}$$

$$2. P^{-1}D^n P \begin{bmatrix} 1 \\ -2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -3 \cdot 2^n + 4(-3)^n \\ -2(-3)^n \end{bmatrix}$$

配点 1:7点,2:2点, 計9点.

**講評** まず  $A$  で表す線形変換, 次に  $B$  で表す線形変換, を行うとき, 合成変換は  $BA$  で表される (Trial L03). 3個以上でも積の順序は同じようになる.

この行列の積を, ベクトル  $\begin{bmatrix} 1 \\ -2 \end{bmatrix}$  にかけることを考えると, まず  $P$  とベクトルとの積を最初に計算することになることから, この順序が正しいことがわかる.

## 10

行列  $A$  の固有方程式は

$$\det(A - \lambda E) = 0$$

$$\det \begin{bmatrix} -8-\lambda & 3 \\ -8 & 6-\lambda \end{bmatrix} = 0$$

$$(\lambda + 6)(\lambda - 4) = 0$$

よって, 固有値は  $\lambda_1 = -6, \lambda_2 = 4$ .

$\lambda_1 = -6$  の固有ベクトルを  $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$  とすると,  $A\mathbf{x}_1 = -6\mathbf{x}_1$  より,

$$-8u + 3v = -6u$$

$$-8u + 6v = -6v$$

よって,  $-2u + 3v = 0$ . すなわち,  $v = \frac{2}{3}u$ ,  $u$ :任意.

固有ベクトルは,  $\mathbf{x}_1 = c \begin{bmatrix} 1 \\ 2 \\ 3 \end{bmatrix}$  ( $c \in \mathbb{R}, c \neq 0$ ).

( $\mathbf{x}_1 = \begin{bmatrix} 3 \\ 2 \end{bmatrix}$  のように固有ベクトルのうちの1個だけを答えてもよい)

$\lambda_2 = 4$  の固有ベクトルを  $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} u \\ v \end{bmatrix}$  とすると,  $A\mathbf{x}_2 = 4\mathbf{x}_2$  より,

$$-8u + 3v = 4u$$

$$-8u + 6v = 4v$$

よって,  $-4u + v = 0$ . すなわち,  $v = 4u$ ,  $u$ :任意.

固有ベクトルは,  $\mathbf{x}_2 = c \begin{bmatrix} 1 \\ 4 \end{bmatrix}$  ( $c \in \mathbb{R}, c \neq 0$ ).

( $\mathbf{x}_2 = \begin{bmatrix} 1 \\ 4 \end{bmatrix}$  のように固有ベクトルのうちの1個だけを答えてもよい)

**配点** 20点.